

光葉同窓会メールマガジン

<2025年12月号>

222号 2025.12.01配信

キャンパス内のイルミネーションや「ゆりの木広場」のツリーがとても綺麗です。イルミネーションの歴史は古く、起源は16世紀のドイツにさかのぼります。マルティン・ルターが、森の中で輝く星を見て、その光景を再現しようと木の枝にロウソクを飾ったのが始まりとされています。いつの世もキラキラと光輝く景色は、寒さを忘れさせてくれるほどに美しく、わくわくとした気持ちを呼び起こしてくれますね。

心せわしい年の暮れ、どうぞ体調管理に気を付けてお過ごしください。(常任委員 渡邊祐子)



■同窓会だより

◇2025年度第33回秋桜祭に参加しました 11月8日(土)・9日(日)

同窓会支部から寄せられた各地の名品、手作り品の販売、支部・同窓生有志による出店バザー、子どもコーナー、同窓生で登山家の田部井淳子さんの展示、ワーキングネットワークの活動報告の展示を行い、たくさんの方にご来場いただきました。



◇ホームカミングデー（昭和女子大学共催）を開催しました

11月8日（土）、9号館アリーナにて開催され、恩師、対象学年同窓生合わせて約350人にお集まりいただきました。華やかな雰囲気の中、マンドリン・ギタークラブ（学生）による校歌の演奏に合わせ、皆さんで合唱しました。久しぶりの再会に、会場はにぎにぎしく盛り上りました。

光葉同窓会 冬季休業期間

2025年12月20日（土）～2026年1月8日（木）

※メールマガジン223号は、2026年1月9日に配信します。

■学園だより

◇【総合情報学部】設置が正式決定！「文理融合型」カリキュラムで、デジタル社会の担い手を育成します

10月28日（火）、文部科学省より認可を受け、総合情報学部の設置が正式に決定しました。これにより2026年4月に、本学初の本格的な理工系学部が誕生し、7学部17学科を擁する大学へとさらなる飛躍を遂げます。

データサイエンス学科（入学定員60名）・デジタルイノベーション学科（入学定員50名）

学部共通で「ビジネス」「健康」「心理」の3つのドメイン（専門領域）を設けます。データサイエンスの手法やデジタル技術と各ドメインに関する知識を合わせ持つ「文理融合型」のカリキュラムが特徴です。今後実施する入学試験および相談会等は、総合情報学部の入試特集ホームページをご確認ください。

<https://www.swu.ac.jp/swuhp/university/admission/admission2/>

◇【昭和女子大学女性文化研究所】公開シンポジウムを開催します 「子どもの未来を共につくる社会へ～出生・育児・法制度・ジェンダー～」

当事者、法制度、医療、福祉社会、経済学など、さまざまな立場から、「子どもの最善の利益」と「ジェンダー視点」を軸に現代の出産や育児、家族のあり方について議論し、子どもの未来を共につくる社会について考えを深めます。

〈日時〉2025年12月6日（土）13:30～16:00にオンライン（Zoom）で開催（参加費無料・申込要）

〈申込締切〉12月4日（木）正午

〈詳細・申込〉<https://www.swu.ac.jp/news/nid00010183.html> でご確認ください。

〈問合せ先〉昭和女子大学女性文化研究所 Email:iwc-admi@swu.ac.jp

■広げよう光の葉



渋谷 恒子さん 1981年 日本文学科卒

「単調な日々の暮らしの中で思うこと」

今年10月5日（日）に、光葉同窓会福島県支部総会が郡山市で開催され、会津地区の同窓生3人と参加しました。同窓会本部の方から大学の近況をお聞きし、社会の変容に応じた女子教育がダイナミックに展開されていることを、頗もしく感じました。また、県内各地から集った同窓生と様々な情報交換ができ、楽しいひと時となりました。

私は、高校の国語の教員を三十数年勤めました。退職後は、産休や病休の先生の代わりに講師として勤めるかたわら、義母の介護をしておりました。今は、自分も「高齢者」と呼ばれる年齢になり、勤めはせずに家事をしながら、時おり、友達と旅行や食事を楽しんでいます。単調な生活の中で、何か、少しでも役に立つことができればと、好きな手芸で小物を作りプレゼントしたり、茶道に興味を持った友達二人に、月一度、着物を着ることや、お茶の点前・作法をお伝えしたりしています。

しかし、今年は思うように物事ができませんでした。2月に、会津若松は大雪に見舞われ、全国ニュースになりました。短時間に120cmを超す雪が降り、除雪の追いつかない幹線道路は車線が一つになり、車で圧縮された雪が氷の塊となって大渋滞を引き起こしました。歩道も埋もれて、買い物さえ命がけで、東日本大震災以来の危機を感じました。それでも春には雪が解け、桜も咲きましたが、今度は連日の猛暑です。体温を超す気温の日もあり、エアコンをつけて体調管理をするのが日課でした。体を良い状態に保って無事に暮らすことに、これほど気をつかったのは初めてのことでした。

そうした中で、話題の映画『国宝』を二度も見たことは満足できる出来事でした。朝日新聞の連載（2017～2018年）も翌朝が待ち遠しい思いで読みましたが、映画は圧倒的な迫力で、華やかな歌舞伎の世界の伝統と技、人物の栄光や苦悩が描かれ、何度も目頭が熱くなりました。退職後、年に二、三度は歌舞伎を見に上京しますが、歌舞伎を初めて見たのは、学寮の緑声舎での観劇の行事だったと思います。ずっと続けてきた茶道との出会いも、緑声舎での夜のお稽古でした。私の趣味や習慣になったり、物事の考え方や生き方のヒントになったりしていることの元をたどると、大学の授業での先生のお話や学寮での生活に行き着くことがあります。学問だけでなく多くの知識や生きるヒントを与えてくださった大学に、改めて感謝するこの頃です。【End】